

1. 第 36 期（令和 4 年度）事業計画

(1) 本社事業部（富山市民プラザビル）

市民プラザビルの運営にあたっては、賑わいの創出を図り、中心地区活性化に寄与することを大きな目標に掲げ、時代の変化（近隣商業環境、経済状況、消費動向、情報通信技術の進展、ライフスタイルの変化等）に対応した施設運営を図ってまいりました。

前期に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大（以下、「コロナ禍」）の影響で、当ビルにおいても賑わい創出のための集客を自粛～中止せざるを得ない状況が続いておりましたが、感染防止に細心の注意を払いながら経済活動を持続する取り組みが広がりを見せ、館内店舗の売上や客数、貸館施設の稼働がコロナ禍以前の水準に戻りつつあります。

第 36 期（令和 4 年度）は、全社的な財政状況を注視しつつ、従来どおり施設の適正な維持管理に努めるとともに、自主イベントも段階的に再開し、コロナ禍以前のビルの賑わいを少しでも早く取り戻せるよう取り組んでまいります。また、まちなか学生シェアハウス事業の開業に向けて準備を進めるとともに、学生が一人でも多く入居してもらえるように効果的なプロモーション活動に努めてまいります。

(2) 駐車場事業部（グランドパーキング）

グランドパーキングの運営にあたっては、中心商店街の活性化に寄与できるよう「明るい・きれい・とめやすい」施設の運営管理を心がけております。今期は定期駐車利用客を増やし収入を確保するとともに経費節減にも努めたことに加え、コロナ禍による㈱大和の全館休業も行われなかったことから、コロナ禍前である令和元年度を上回る見込みです。

第 36 期（令和 4 年度）は、現状の定期駐車利用客を確保した上で売上を維持し、経費節減を図りながら施設の維持にも努めてまいります。

(3) まちづくり事業部（旧・株式会社まちづくりとやま）

まちづくり事業部では、平成31年4月1日の株式会社まちづくりとやまとの合併後、同社がこれまで取り組んできた中心市街地の活性化に関する諸事業（グランドプラザの運営、地場もん屋の運営、コミュニティバスの運行、富山市中心商店街2時間駐車サービス事業など）を承継しております。

今期は、コロナ禍以前と比較して、グランドプラザ利用料収入やまいどはやバス乗車収入が減少している一方、地場もん屋の売上がオープン以来最高となる見込みです。また、利用客の減少が続いているコミュニティバス運行について、有識者の意見を参考にルート変更及び料金値上げを行い、収支の改善に努めてきました。

しかしながら、まちづくり事業部全体としては、人件費や事務経費に対する富山市からの補助金が減少したことなどから経営は依然として厳しい状況にあります。

第36期（令和4年度）は、引き続き、地場もん屋の売上の大幅増を図るなど自主財源の確保やコミュニティバス事業の収支改善に努めるとともに、これまでの業務の見直しについて、富山市及び中心商店街関係諸団体等と協議を行い、当事業部が不採算事業の対応に追われないよう、また、補助金依存体質から脱却できるよう取り組んでまいります。

こうした現状を踏まえながら、次の事業に取り組んでまいります。

- (1) 富山市民プラザビルの賃貸と管理運営
- (2) グランドパーキングの管理運営
- (3) 地場もん屋の売上の大幅増
- (4) 賑わいと話題性溢れるイベントの実施
- (5) まちなか学生シェアハウス事業の開業

2. 第36期（令和4年度）収支計画

（単位：千円）

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
家賃収入	452,600	〔仕入高〕	15,500
共益費収入	138,800	人件費	198,500
駐車場収入	222,100	一般管理費	447,600
事業収入	136,500	イベント事業費	47,200
受託料収入	59,500	租税公課	116,000
補助金収入	158,900	解体撤去費	3,300
雑収入	7,800	小計	812,600
受取利息等	100	減価償却費	273,700
—	—	固定資産除却損	300
合計	1,176,300	合計	1,102,100
差引額			74,200